

おはよう (Good morning / صباح الخير)

友人たちは朝に私から届く「おはよう」というメッセージを読むと安心できることでしょう。ガザでは、毎朝友人や親戚がお互いに「おはよう」と送ります。返信が来るということは、友人がまだ生きていることの知らせとなります。返信がない場合は心配ですが、相手のインターネットが切れている可能性もあります。そのため、友人の返信を一日中待ちます。待って待って、翌朝新しい挨拶を送ります。それでも返信がない場合には次の段階に進み、携帯電話に電話をかける旅が始まり、応答があるかどうかの苦しみに続きます。応答がない場合、「現在おかけになった電話は通話できません」や「電源が入っていません」というメッセージが流れます。「電源が入っていません」という返答があれば、その人が殉死した可能性が高いですが、「通話できません」となれば、ネットワークがダウンしている可能性が高く、まだ生きているという希望が残ります。そうであれば友人の近くにいる人々に連絡を取り、無事を確認しようとし、携帯電話の持ち主が生きているか殉死しているかの確かな情報を得るまで、試行錯誤が続きます。だからこそ、朝に「おはよう」と言うとき、それは無事であることを意味します。

戦争中の他の行動もその意味が変わっていきます。その一つに、避難先で朝トイレに行くときのことが挙げられます。右手には水 2ℓ のボトルとトイレトペーパーを持ち、ビデの代わりとし、左手には水バケツと洗面器を持ち、水洗機の代わりとします。もしトイレが空いているのを見たら「なんて素晴らしい世界だ」とつぶやきながら、笑顔で座ります。

読者の皆さんに、なぜボトルやバケツ、トイレトペーパー、掃除道具を持ってトイレに行くのかを説明しますと、短く言えば、私たち避難民が一つの家の中で百人以上いるからです。トイレは一つだけで、常に占領されており、行列ができています。戦争の初め頃はトイレの水洗機を使っていましたが、家主が 1,000 ℓ のタンクに水を補充するのに二日かかり、一日中トイレが使われ、タンクは二日で空になります。その結果バスルームのタンクはロックされ、それからは各家庭が自分たちで水を購入し、トイレも含めてすべての水の使用を自分たちで対応するようになりました。

一週間前、友人がコーヒーに招待してくれました。しばらくしてトイレに行きたくなり、南部に避難して以来、初めてあるべきものがあるトイレに入り、以前の生活を思い出しました。友人宅のそのトイレに座ったとき、私たちが毎秒どれだけの苦しみを経験しているのかを実感しました。私たちは人間性を失い始め、50 年前どころか 100 年前に戻ってしまったようです。

壊れた家や道路を再建することはできますが、壊れた人々、思い出、感情、行動、文化、教育、関係、制度を元に戻すことはできません。これからの日々になんか残されているなら、神の助けを借りて、それを乗り越えなければなりません。私たちの夢は歪み、願いは縮小し、些細なことにも喜びを感じるようになりました。

例えば、市場に行きたいとき、ロバではなく馬が止まってくれたら「なんてラッキーなんだ、今日は素晴らしい一日になりそうだ！」と自分に言い聞かせます。そして馬が尾を上げて排泄を始めても、不思議な事に乗客の誰もそれを気にせず、臭いにも気にせず、まるで歩いているかのように通りの両側の商品を熱心に見ています。カートの運転手は、乗客の一人が何かを買うために少し停車しても気にせず、私たちもその乗客が戻るまで待ちます。道中、乗客はカートの上から、毎朝上下する株式市場のような商品の価格について大声で尋ねます……今日は砂糖1キロいくら？ネスカフェはいくら？いくら、いくら？……

ガザには世界中、エジプト、トルコ、アラブ首長国連邦、ヨルダン、ベトナム、クウェート、中国、日本、アメリカ、スペイン、インド、そしてアフリカ諸国から缶詰が届きます。それらは私たちのために作られたものです。猫や犬に拒否されるものも多くありますが、私たちは胃の中に放り込みます。ミサイルで死ななかつた者は別の何かで死にます。缶詰は多くあり、死因の多くは癌です。

戦争の只中ではどこを向いてもあるのは痛み！人々の顔の青白さに服装や靴に涙が出ます。列を作って並ぶ子供たち、大人たちが持っている容器には、最悪の料理人が作った最悪の料理が入っています。それを食べるしかなく、何時間もその列に並び続けることだってあります。

怒りを抑え、感情が自分を殺し、心の痛みを感じながら、私たちに起こったこと、起こっていること、これから起こることに苦しみます。そして、アメリカが民間人の命を大切にしていると言うニュースを聞き、怒りを覚えてチャンネルを変えます。すると、アメリカが最新のミサイル、爆弾、飛行機、爆発物をイスラエルに輸出したというニュースを耳にし、イスラエルが私たちの命を守ろうと懸命に努力しているというニュースも聞きます。しかし、これまでに確認された殉死者の数は 33,000 人に達し、そのうち 14,000 人は子供で、残りの大半は女性と高齢者です。

少し眠ろうとしますが、頭の中で質問が戦い続けます。そして、どの質問にも答えを見つけることができず、私たちがどこへ向かっているのか、この状態がいつまで続くのかを知ることができません。

2024年4月1日

アリー・アブー・ヤースィーン

訳 藤田ヒロシ

(2024.8.30 改定)